

令和4年度 第5回
関東地区高校生介護技術コンテスト



イラスト：茨城県立古河第二高等学校2年 関 楓

開催日時：令和4年8月26日（金）10：00～12：45

会 場：ZOOM を用いたオンライン形式(主幹校 古河二高)
(ミーティング ID: 636 504 2574、パスコード: 2EUpFe)

主 催：関東地区福祉高等学校長会

主 管：関東地区高校生介護技術コンテスト実行委員会

後 援：茨城県教育委員会

目次

1. 実行委員長あいさつ	1
2. 令和4年度 第5回関東地区高校生介護技術コンテスト 実施要項	2
3. 本日の日程	3
4. 出場校・選手一覧	4
5. 令和4年度 第5回関東地区高校生介護技術コンテスト 課題	5
6. 令和4年度 第5回関東地区高校生介護技術コンテスト 評価表	7
7. 関東地区高校生介護技術コンテスト実行委員会規約	8
8. 関東地区高校生介護技術コンテスト実施規則（令和4年度動画提出版）	10
9. パンフレット	12

1. 実行委員長あいさつ

関東地区高校生介護技術コンテスト実行委員会
実行委員長

有瀧 由起子（茨城県立古河第二高等学校長）

この度、茨城県介護福祉士会、晃陽看護栄養専門学校、関係の皆さまのご協力を得て、第5回関東地区高校生介護技術コンテストを開催する運びとなりました。皆さまのあたたかいご支援・ご協力に厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症による制約下の生活も3年目を迎え、安心・安全と生徒の学びを両立させる知見もある程度蓄積できたように感じます。その一方で、施設実習をはじめとする対外的な学びに関しましては、常にコロナ感染状況を鑑みながら、臨機の対応を迫られているのが実情です。そのような状況下、昨年度に引き続きリモート開催で実施される本コンテストの意義は、誠に大きなものと自負しております。

出場各校の生徒の皆さんは、さまざまな工夫を重ねて練習に取り組んでこられたことと推察いたします。日頃の練習の成果を存分に発揮されるとともに、互いの知識や技術の集大成である本日の発表を通して、さらなる相互の研鑽を積まれることを心から祈念いたします。特に、急激な少子高齢化の進行やコロナ禍に伴う社会の質的变化はもとより、求められる介護技術の高度化、AIやIoTなど先端技術の導入など、大きな変動の時代にあっては、介護を志す皆さんに求められる資質・能力もおのずと影響を受けるものと思われまます。そのような流行の中にあっても不易の「介護の心」を着実に育み、利用者のニーズを的確に捉え、実践することのできるエキスパートとして、地域を支える人財へと成長してくれることを大いに期待いたします。

結びに、日頃より熱心なご指導をいただいている関東各高等学校の先生方をはじめ審査員の皆さま、本コンテスト開催にあたり多大なるご尽力を賜りました関係各位に対し、深く感謝申し上げます、あいさつといたします。

2. 令和4年度 第5回関東地区高校生介護技術コンテスト 実施要項

- 1 目的 関東地区の高等学校で福祉を学ぶ生徒が、介護技術を競い合うことにより、介護技術を高めるとともに、様々な介護場面において、適切かつ安全に支援できる能力と態度を育成することを目的とする。また、関東地区内の福祉を学ぶ高校生が交流を深め、お互いの介護力を高める場とする。
- 2 主催 関東地区福祉高等学校長会
関東地区高校生介護技術コンテスト実行委員会
- 3 後援 茨城県教育委員会
- 4 主管 関東地区高校生介護技術コンテスト実行委員会
- 5 日時 令和4年8月26日（金）10:00～ 発表会・交流会・結果発表
- 6 開催方法 動画提出による審査
- 7 審査員 茨城県介護福祉士会 会長 森 久紀 様(委員長)
茨城県介護福祉士会 理事 加藤 光昭 様
晃陽看護米養専門学校 専任教員 宮崎 裕子 様
宮城県登米総合産業高等学校 教諭 高橋 郁恵 様
- 8 審査 別紙評価表による
- 9 出場者 1チーム同一校3名、競技は2名
- 10 出場校 7校
神奈川県代表 神奈川県立津久井高等学校
栃木県代表 栃木県立真岡北陵高等学校
茨城県代表 茨城県立古河第二高等学校
群馬県代表 群馬県立安中総合学園高等学校
千葉県代表 千葉県立松戸向陽高等学校
埼玉県代表 埼玉県立戸田翔陽高等学校
東京都代表 東京都立野津田高等学校
- 11 表彰 最優秀校1校、優秀校2校、他優良賞

3. 本日の日程

10:00～10:20 開会式 司会:古河二高生徒2名

開会

1. 主催者あいさつ 千葉県立松戸向陽高等学校 校長
2. 実行委員長あいさつ 茨城県立古河第二高等学校 校長
3. 来賓祝辞 茨城県教育庁学校教育部高校教育課課長(録画)
4. 審査員紹介
5. 競技内容等説明
6. 発表開始

各県代表(チーム)の持ち時間	学校紹介(自己紹介)	1分
	発表	7分
	アピール	2分
	(講評)	2分以内
	計	12分

10:20～12:10 競技

10:20～10:35 1組目 群馬県立安中総合学園高等学校 (講評:高橋先生)

10:35～10:50 2組目 東京都立野津田高等学校 (講評:高橋先生)

10:50～11:05 3組目 埼玉県立戸田翔陽高等学校 (講評:宮崎先生)

(休憩5分)

11:10～11:25 4組目 千葉県立松戸向陽高等学校 (講評:宮崎先生)

11:25～11:40 5組目 茨城県立古河第二高等学校 (講評:加藤様)

11:40～11:55 6組目 神奈川県立津久井高等学校 (講評:加藤様)

11:55～12:10 7組目 栃木県立真岡北陵高等学校 (講評:加藤様)

(休憩10分)

12:20～12:35 生徒交流 (質疑応答)

12:35～12:45 閉会式

1. 審査結果発表 (審査委員長:森会長)
2. 全体講評 (審査委員長:森会長)
3. 表彰 (主催者 校長会理事 松戸向陽高等学校 校長)
4. 諸連絡
5. 閉会

4. 出場校・選手一覧(省略)

5. 令和4年度 第5回関東地区高校生介護技術コンテスト 課題

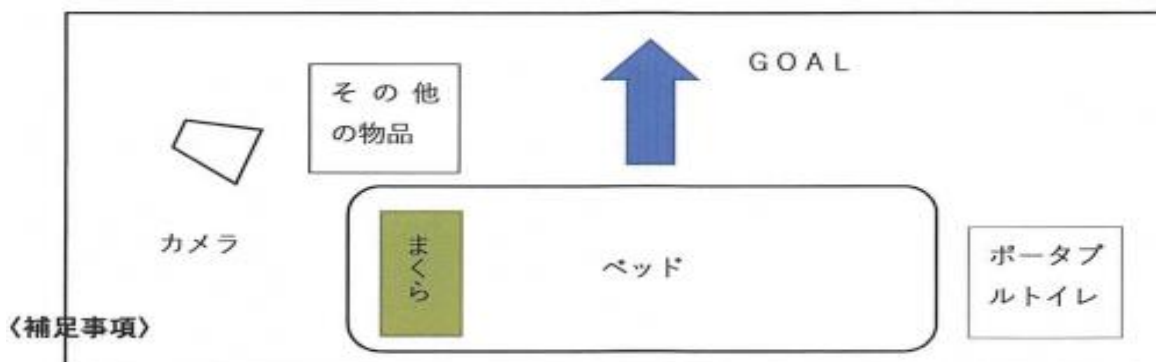
筑波かすみさん(85歳女性)は、脳梗塞の後遺症で右上下肢麻痺があります。また、会話はできまが、話の内容を理解していない様子がたびたび見られます。現在、筑波さんは介護老人保健施設に入所して3か月になります。衣服の着脱、食事、排せつ、移動は一部介助が必要です。

現在、筑波さんは昼食を食べ終え、居室で休憩中です。これから大ホールで大好きな演歌歌手のコンサートがあります。仰臥位で寝ている筑波さんを起こし、ポータブルトイレでの排せつ介助をし、上着を着て、居室の出口までの歩行介助をしてください。

(筑波さんは「はい」または「うなづく」のみです。)

(試験時間7分以内)

健康状態 心身機能 身体状況	要介護2 脳梗塞による後遺症で右上下肢麻痺と失語症がみられる。 軽度の認知症症状がみられる。
活動	座位・・・可 排せつ・・・ポータブルトイレを使用、リハビリパンツを使用 移動・・・T字杖を使用しているが、最近下肢の筋力低下がみられ歩行に不安がある。 一部介助(室内でも杖を使用、点検済み) 立位・・・下肢の筋力低下が見られ、支えが必要である 移乗・・・一部介助 ・利き手は右手
個人因子	・85歳、女性。 ・2人の息子をもうけ、夫と農業を営んでいた。 ・体を動かすことが好きで、山登りが趣味。演歌が好き。
環境因子	-夫は5年前に他界。 -入所前は長男家族と暮らしていた。次男は隣町に家族と住んでいる。 ・3か月前から介護老人保健施設に入所し、リハビリを行っている。
使用物品	ベッド シーツ 机 ポータブルトイレ T字杖 サイドレール 呼び鈴 手拭き バスタオル トイレットペーパー 使い捨て手袋 履物 前開き(ボタン)の上着2枚 タイマー
備考	筑波さんはかぶりのトレーナーとズボンを着用し、仰臥位で寝ています。 タオルケットなどの掛け物は省略します。 準備する上着は、前開きのボタンがついているもの(チャック式は不可)とする。



1 試験会場図

①杖歩行の距離

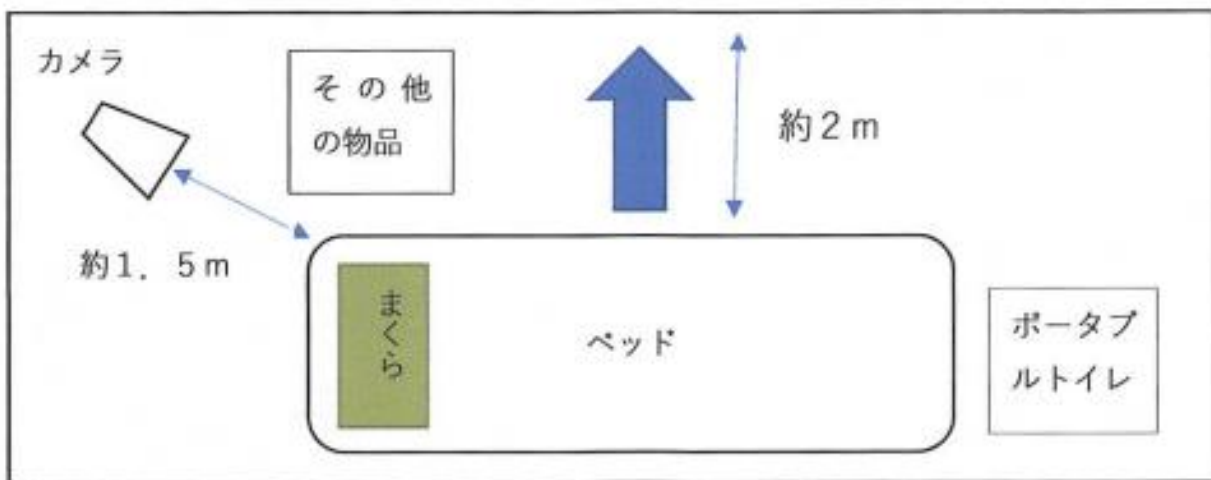
- ・ベッドからスタートし、直線で約2メートル

②ビデオカメラ

- ・使用できるカメラは1台とし、指定された場所に固定し撮影する。
- ・カメラの位置は、1.5メートル程度を目安とし、上からのアングルで全体が写るようにする。
(その他の物品が置かれているテーブルは、多少映らなくても問題はない)。

③タイマー

- ・カメラに映る位置に必ずタイマーを置き、開始から終了までの時間が見られるようにすること。



2 使用する物品について

①ベッド

- ・ベッドはシーツを敷き、枕を使用する。 ・サイドレール使用可
- ・掛け布団などは省略する。

②上着

- ・最初、かぶりのトレーナーとズボンを着用しているのので、その上から前開きの上着を着る。前開きの上着については、ボタンをしめるタイプのもとする(チャック式、マジックテープ不可)。かぶりのトレーナーやズボン、前開きの上着は実習で使用しているパジャマなどで代用してもかまわない。

③ポータブルトイレ

- ・蓋つきのものとし、使用後の処理は省略する。

-最初は足元に置いておく。

④履物

- ・履物の指定なし。

3 その他

- ・ズボンの下にはリハビリパンツを履き、パッドはなしとする。排泄後はリハビリパンツの交換はしない。

令和4年度 第5回関東地区高校生介護技術コンテスト 評価表

都県名		学校名	高校
-----	--	-----	----

	評価項目	評 価			
1	コミュニケーション	0	1	2	3
2	利用者の状況把握	0	1	2	3
3	事前説明と同意	0	1	2	3
4	自己決定（個人）の尊重	0	1	2	3
5	自立に向けた支援 （利用者の持つ力の活用）	0	1	2	3
6	安全・安楽への配慮	0	1	2	3
7	ボディメカニクスの活用	0	1	2	3
8	右麻痺・失語症・認知症への配慮	0	1	2	3
9	移動・移乗に関する支援・介助	0	1	2	3
10	衣服着用・整容に関する支援・介助	0	1	2	3
11	排泄に関する支援・介助	0	1	2	3
12	介護者同士の連携・役割分担	0	1	2	3
13	介護者としての資質	0	1	2	3
制限時間 7分以内		終了 時間切れ			
14	根拠に基づいた介護内容の説明	0	1	2	3
15	介護の創意工夫点の説明	0	1	2	3
合 計		/ 45			
特筆すべき事項					

7. 関東地区高校生介護技術コンテスト実行委員会規約

(名称)

第1条 この会は、関東地区高校生介護技術コンテスト実行委員会（以下「本会」という。）と称する。

(目的)

第2条 本会は、関東地区の高等学校で福祉を学ぶ生徒が交流を深め、お互いの介護力を高める場となる介護技術コンテストを実施することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 関東地区高校生介護技術コンテスト

(構成)

第4条 本会は、全国福祉高等学校長会に加盟する関東地区の高等学校によって構成する。

(役員)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 委員長 1名
- (2) 副委員長 1名
- (3) 委員 若干名
- (4) 監事 2名

2 役員は全国福祉高等学校長会に加盟する関東地区の高等学校のうち主管高等学校及び他県の福祉科教諭から選出する。

3 役員任期は1年とし、再任は妨げない。

(職務)

第6条 委員長は、本会を代表し、会務を統括する。

2 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。

3 監事は、会計を監査する。

(会議)

第7条 本会の会議は、必要に応じ委員長が召集し、議長は委員長があたる。

2 会議に付議する事項は次のとおりとする。

- (1) 規約の制定及び改廃に関する事
- (2) 役員を選任に関する事
- (3) 事業計画及び予算に関する事

(4) 事業報告及び決算に関すること

(5) その他の必要事項

(事務局)

第8条 本会の事務を処理するため、主管高等学校に事務局を置く。

2 事務局に事務担当者を置く。

(1) 事務担当者 1名

(会計)

第9条 本会の会計は、参加費、その他の収入をもってこれに充てる。

2 本会の会計は、4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

(その他)

第10条 この規約に定めるものの他、本会の運営に必要な事項は委員長が定める。

附則

1 この規約は、平成29年6月6日から施行する。

8. 関東地区高校生介護技術コンテスト実施規則（令和4年度動画提出版）

1 目的

全国福祉高等学校長会に加盟する関東地区の高等学校で福祉を学ぶ生徒が、介護技術を競い合うことにより、介護技術を高めるとともに、様々な介護場面において、適切かつ安全に支援できる能力と態度を育成することを目的とする。

また、関東地区内の福祉を学ぶ高校生が交流を深め、お互いの介護力を高める場とする。

2 実行委員会

「関東地区高校生介護技術コンテスト」の実施主管高等学校の校長を実行委員長とし、実施主管高等学校と他県の福祉教諭をもって組織し、実行委員会として、企画・運営にあたる。

3 競技内容

(1) 出場資格 全国福祉高等学校長会に加盟する関東地区の高等学校で福祉を学ぶ生徒（1チーム3名以内とし、競技は2名）とする。各学校の参加チーム数は、原則として1チームとし、各県大会優勝校とする。

(2) 利用者役 原則として、福祉科の教員または生徒とする。

(3) 課題 「A移動の介護 B排泄の介護 C身支度の介護 D食事の介護」のうち一つまたはA～Dを組み合わせた課題を、実行委員会(主幹校)で作成する。

(4) 時間 競技7分、説明2分とする。

(5) その他 必要物品は課題に基づき、各校で用意する。

4 参加費、運営費

今年度に関しては、参加費を徴収しない。関東地区の予算から割り当てられた予算が必要となった場合には、これを大会運営費に充てる。

5 審査方法

(1) 審査対象 課題に対する介護技術とアピールを総合的に審査する。

(2) 審査員 高等学校の福祉教育に理解の深い学識経験者・現場経験者等をもってあてる。
原則として、1競技に審査員2名以上で審査にあたる。
なお、実行委員会で選出、実行委員長が委嘱する。

(3) 審査 別紙に作成するチェックリストに基づいて行う。

6 表彰

最優秀賞1チーム、優秀賞2チーム、その他のチームには優良賞を授与する。

※競技内容により、審査員特別賞を設ける場合もある。

7 競技上の注意事項

(1) 出場生徒の服装は、実習服または体操服と上履き（動きやすいもの）とする。

(2) 出場生徒は、競技中、一切の指導助言を受けることはできない。

(3) 競技・アピールの動画撮影の際には、タイマーが見える位置に設置し、それぞれ規定時間内に終えることとする。また、競技動画の編集は不可とする。

(4) 出場順は、実行委員会で抽選を行い決定する。

付則

- 1 この規程は、令和4年6月15日から施行し、「令和4年度動画提出版」についてのみ適用する。来年度の実施方法については、改めて協議する。

令和4年度第5回関東地区 高校生介護技術コンテスト

関東地区において福祉を学ぶ高校生が、課題事例を検討し、安全・安心な介護技術を用い、利用者の尊厳を最大限に尊重することができるように介護サービスを提供していくことを通して、将来の介護の担い手としての資質能力を切磋琢磨しながら競い合う。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、今年度も関東地区大会がリモート(オンライン)によって開催される。最優秀校に選出された学校は、関東地区の代表として「第32回全国産業教育フェア」で行われる「第9回全国高校生介護技術コンテスト」に出場する。



開催日時 令和4年8月26日(金) 10:00~12:45

会場 ZOOMを用いたオンライン形式

主催 関東地区福祉高等学校長会
主管 関東高等学校介護技術コンテスト実行委員会
後援 茨城県教育委員会
問合せ 茨城県立古河第二高等学校福祉科(主管校・事務局)
E-mail kaigo-contest@koga2-h.ibk.ed.jp
電話 0280-32-0444



QRコード↑
での申込↑
はコチラ↑

※動画視聴をご希望の方はGoogleフォームでお申し込み
https://docs.google.com/forms/d/1UWNAxByyiy-ILARhc3UNj50h1ZWb0Xpvtz5j_uFQ/edit
いただくか事務局校まで、ご連絡ください。